

なら

植防ニュース

発行

一般社団法人奈良県植物防疫協会

〒633-0046 桜井市池之内130-1
奈良県農業研究開発センター内

TEL:0744(47)4861

FAX:0744(47)4862(専用)

令和2年度 農薬安全使用研修会

7月29日に奈良県農業研究開発センター交流・サロン棟にて農薬安全使用研修会が開催された。本年はコロナウイルス感染拡大の影響により、参加者を例年の半数程度に制限し、2部制で行った。

「農薬は周りに配慮し正しく使用」というテーマで(公社)緑の安全推進協会の乾公正氏が講演された。

農薬には「農作物」「使用者」「消費者」「周辺住民や環境」に対する安全性が求められており、農薬の法令等取り扱い上の規則をつくり、遵守することで、これらの安全性を確保している。

農薬の適正使用は安全性を確保する上で必要である。農薬のラベルの記載に基づいて適用作物や希釈倍数、使用時期、使用回数を遵守し、使用しなければならない。なかでも、農薬の使用回数は製品だけでなく、有効成分ごとに制限があるため、複数の農薬を使用する場合は有効成分の総使用回数を超えないよう注意する必要がある。また、農薬散布の際も、強風の際は散布しない、散布の方向や位置に注意する、細かすぎるノズルはなるべく使用せずにドリフト低減ノズルを使

目次

◎農薬安全使用研修会の開催	1
◎果樹カメムシ類の発生予察と今年の状況	2
◎今年の奈良県におけるクワアカツヤが判発生状況とその対策	3
◎登録失効になった農薬 (FAMICの失効農薬情報より)	4
◎農薬の使用制限にかかる登録変更 (日植防会員通信「植防コメント」より抜粋)	4

用する、多量に散布せず適正量を散布するなど、周囲への飛散を防止するための対策を講じる必要がある。

街路樹や公園、住宅地等での農薬使用では周辺住民への安全・安心の確保が重要である。定期的な農薬散布など、不必要な散布はできるだけ行わず、やむを得ず農薬を散布する場合は、農薬の適正な使用や適切な薬剤の選択、飛散防止対策の徹底を行い、周辺住民及び環境に対する安全を確保する必要がある。また、農薬に対する正しい知見に基づく説明を行い、事前に散布作業の周知を徹底し、周辺住民の理解と納得を得ることが必要である。

果樹カメムシ類の発生予察と今年の状況

奈良県果樹・薬草研究センター 小島 英

果樹カメムシ類は春～秋を通じて多くの果樹に被害をもたらす害虫で、加害種はチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシ、クサギカメムシの3種類とされている。

1. 生態

カメムシ類は4月頃の気温上昇とともに越冬成虫が活動を開始し、5～6月にはサクラやクワなどを餌としているが、果樹でもウメやモモ、ナシの幼果が加害される。カキでも蕾や幼果が吸汁されてしまうと落蕾・落果の原因となる。7月以降は世代交代の時期にあたり、スギやヒノキの球果を餌として増殖し、吸汁により球果が劣化する8月以降には新成虫が果樹園に飛来して被害が発生する。11月以降は越冬期にあたり、チャバネアオカメムシは落ち葉の下、ツヤアオカメムシは常緑樹の葉の内側、クサギカメムシは建物内や大木の樹皮下など、3種それぞれの場所で越冬する。

カメムシ類の新成虫数は餌となるヒノキなどの球果数が関連しており、球果が多い場合には栄養を十分に確保できることから新成虫の発生が多い。ただし、新成虫数に対して、ヒノキ球果などの餌が十分にある場合は果樹園への飛来は少なくなる。

2. 発生予察の取り組み

県ではカメムシ類の発生状況を把握するための取り組みを行っている。①チャバネアオカメムシの発生を予測するため、県下18地点で落ち葉を集めて、成虫の越冬量を調査、②発生量や動向を確認するため果樹生産者の協力を得ながら県下8か所で誘殺灯での誘殺数を日ごとに確認、③5～10月には県内果樹園の巡回による被害状況調査、④5月はサクラやクワ、6～9月はスギやヒノキのカメムシ寄生数の確認、⑤カメムシ類の飛来時期を予測するためヒノキ

球果の口針鞘（吸い痕）数を調査している。

3. 今年の発生状況

今年のカメムシ類の発生状況は図のようになっており、昨年度行った前述①の調査でチャバネアオカメムシの越冬量が多く、前述②③④の調査の結果からも虫数が多かったことから、5月14日付で病虫害防除所より病虫害発生予察注意報が発出された。また、今年の特徴として、寒さに弱いツヤアオカメムシが例年に比べ多発したことが挙げられる。その要因として、1月の平均気温が7.0℃と平年値と比べて3.1℃高く、暖冬であったことが考えられる。

8月以降は一部の地域で一晩の誘殺数が100頭を超えることはあったが、スギ・ヒノキの球果数が少なく県内全体でみると新成虫の発生数は少ないと推測される。



写真. カキを加害するカメムシ類
(チャバネ、ツヤアオ)

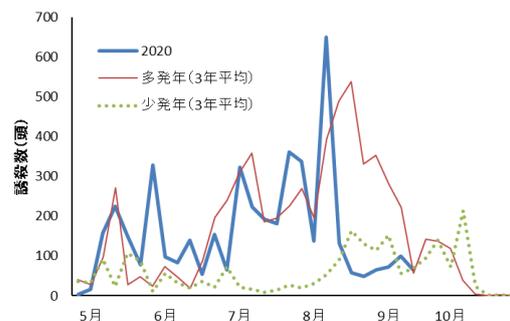


図. チャバネアオカメムシの誘殺数(旬別)

今年の奈良県におけるクビアカツヤカミキリ発生状況とその対策

奈良県病害虫防除所 井村岳男

クビアカツヤカミキリは、サクラ属の樹木を加害する中国原産の侵入害虫である。本種は現在、関東と関西の都府県で発生しており、モモ、スモモ、サクラ、ウメなどサクラ属の樹木で枯死に至る激しい被害が発生している。奈良県では、昨年度の発生予察特殊報の発表以降、市街地を中心に発生地域と被害が急拡大しており、今後の注意喚起のために、現在の県内の状況をお伝えする。

奈良県では昨年度、県北西部で成虫捕獲事例の報告が相次ぎ、今年度は春から幼虫による被害が頻発している。発生地は県北西部から徐々に東進しており、9月10日現在、大和郡山市、天理市、生駒市、大和高田市、葛城市、御所市、香芝市、斑鳩町、平群町、田原本町、上牧町、広陵町で確認している。五條市のウメ産地では未だ発生を確認していないが、隣接する和歌山県の果樹産地では既に発生しており、警戒が必要である。現在発生を確認した地点は、いずれも互いに距離が離れた飛び地状の分布を示している。また、車の往来が激しい地域の主要道に近い場所であることが多く、特に東に突出した地点である大和郡山市と天理市の発生地は、西名阪自動車道に近い場所であることから、通行する車に「ヒッチハイク」した、非意図的な人為的分散が起こっている可能性がある。

現在、県では、外来生物法を所管する景観・自然環境課を中心に、農業、林業、公園管理等の部局が連携して対応しており、被害報告が寄せられた場所に確認に赴き、

樹皮を剥いで幼虫の確認と捕殺、殺虫剤の注入などの応急処置を行うと共に、防虫ネットの樹幹被覆や樹幹注入剤の処理方法を実地指導しているほか、樹全体に多数のフラス排出口が認められるような場合は伐採を勧めることもある。

本種は、1本の樹に数頭から多い時には数十頭の幼虫が穿孔して樹皮下を激しく食い荒らし、株元には大量のフラスが積み重なるなど、明らかにこれまでのサクラ属の樹幹害虫とは異なる被害状況が観察される。本種は1頭の雌成虫が1000以上の卵を持つ場合もあるので、被害に気付かれないままこれらの幼虫が全て羽化してしまったら、周辺に被害が急拡大すると考えられ、まさしく「クラスター」の様相を呈している。

今後も被害地域は徐々に拡大していくと考えられるが、樹体内への穿孔被害を確認してからの対策では根絶が難しい。本種に対する樹幹散布の登録剤が増えつつあるので、ウメ、モモ、スモモ等の果樹や、サクラ、ハナウメ、ハナモモ等の花木類を生産している方々は成虫防除による予防対策についてご一考頂きたい。



写真 サクラに寄生するクビアカツヤカミキリ幼虫

登録農薬失効情報 (2020.6.1~2020.9.30) 農林水産消費安全技術センター(FAMIC)の登録農薬失効情報より抜粋

登録番号	農薬の種類	農薬の名称	申請者名 (略称)	失効日 月/日/年
殺虫剤				
10527	M P P 乳剤	クミアイバイジット乳剤	クミアイ化学	6/10/20
17252	トラロメトリン水和剤	スカウトフロアブル	バ イル	9/25/20
殺虫殺菌剤				
21225	クロチアニジン・プロベナゾール粒剤	明治ダントツオリゼメート 1 0 箱粒剤	Meiji Seika	9/11/20
23408	クロチアニジン・テブフロキン・バリダマイシン粉剤	トライメイジン粉剤 D L	Meiji Seika	9/11/20
殺菌剤				
17956	オキシリニック酸粉剤	スターナ粉剤 D L	住友化学	6/24/20
23635	オキシリニック酸粉剤	協友スターナ粉剤 D L	協友アグリ	6/26/20
23668	イミノクタジンアルベシル酸塩水和剤	協友ベルコート水和剤	協友アグリ	6/26/20
除草剤				
21290	グリホサートナトリウム塩・テトラピオン液剤	フレピオン液剤	三井化学アグリ	6/25/20
その他剤				
22282	ペンディメタリン複合肥料	B A S F プレエム 5 5 0 粒剤	BASF ジャパン	9/30/20
23019	デシルアルコール・ブトルアリン乳剤	ニューファムイエローリボン S	ニューファム	8/19/20

【農薬の使用制限にかかる登録変更】 2020.6.1~2020.9.30 日植防会員通信「植防」より抜粋

登録日	登録番号	商品名(種類名)	変更内容	登録会社
6月10日	9625	サンヨール (D B E D C 乳剤)	麦類、小麦の削除	米澤化学(株)
8月12日	22138	エリジャンEW乳剤 (プレチラクロール乳剤)	移植水稻の使用時期から「植代後~移植前7日又は移植直後~ノビエ1葉期ただし、移植後30日まで」を削除	シンジエンタジヤパン(株)
8月26日	4917	強カローダン (クマリン系粉末)	使用方法をソ穴への投入に限定	サンケミファ(株)
8月26日	12988	粉末ラテミン(クマリン系粉末)	貯穀穀物等の使用方法を「散布」から「配置」に変更。野ソが加害する農作物等の使用をソ穴への投入かベイトボックスに入れて配置に限定	大塚薬品工業(株)
8月26日	12314	サンケイクマリン (クマリン系粒剤)	防湿性の小袋に入れた薬剤を処理することを明記	琉球産経(株)
8月26日	15591	ヤソール (クマリン系粒剤)	野ソの通路に配置する場合は、防水性の小袋に入ったものの使用に限定。ベイトボックス使用の使用方法を追記	大塚薬品工業(株)
9月9日	23804	メジャーフロアブル (ピコキシストロピン水和剤)	にんにくの使用時期を「収穫前日まで」から「抽苔始め~収穫前日まで」に変更	日本農薬(株)
9月9日	17203	スターナ水和剤 (オキシリニック酸水和剤)	稲の希釈倍数「1000倍」を削除し、オキシリニック酸を含む農薬の総使用回数を「1回」に変更	住友化学(株)
9月9日	21735	協友スターナ水和剤 (オキシリニック酸水和剤)		協友アグリ(株)
9月30日	18724	ダイロンゾル (DCMU水和剤)	水田作物(水田畦畔)を「水稲(水田畦畔)」に変更し、使用時期「雑草発生前~生育初期」を「雑草発生前~生育初期 ただし、収穫30日前まで」に変更	保土谷化学工業(株)
9月30日	22908	ホクコーダイロンゾル (DCMU水和剤)		北興化学工業(株)
9月30日	19022	アグロスダイロンゾル (DCMU水和剤)	水田作物(水田畦畔)を削除	保土谷アグロテック(株)
9月30日	19102	ベストガード水溶剤 (ニテンピラム水溶剤)	稲を削除	住友化学(株)
9月30日	21610	協友ベストガード水溶剤 (ニテンピラム水溶剤)		協友アグリ(株)
9月30日	19103	ベストガード粒剤 (ニテンピラム粒剤)		住友化学(株)
9月30日	21609	協友ベストガード粒剤 (ニテンピラム粒剤)		協友アグリ(株)